

災害に備えて 備えあれば憂いなし

9月1日は、関東大震災を教訓に定められた「防災の日」です。

地震の心得

◎ まず我が身の安全を守れ！

地震が起きたら、まず第一に身の安全を確保するためにテープルなどの下にもぐろう。

◎ すばやく火の始末

「あわてず、さわがず、冷静にく火を消せ！」とみんなで声をかけ合い、調理器具、暖房器具などの火を確実に消そう。

◎ 火が出たらすぐに消化を

「火事だ！」と大声で叫び、隣近所にも協力を求め初期消火に努めよう。

◎ 外に出るときは、あわてずに

外に出るときは、ガラスなどの落下物に注意し、落ち置いて行動しよう。

◎ 狹い路地、壁ぎわ、崖や川べりに近寄らない

ブロックの壆・自動販売機などは倒れやすいので、その場から離れて近づかないようにしよう。

◎ 山崩れ、崖崩れ、津波に注意しよう

山間部や海岸地帯で地震を感じたら、直ちに避難しよう。



すばやく火の始末をしましょう。

災害に備えて

備えあれば憂いなし

土砂災害の前兆現象

◎ 避難は徒歩で、荷物は最小限に指定された避難所に徒歩で避難しよう。荷物を持ちすぎると避難の支障になります。

◎ みんなで協力して「応急救護」

みんなで助け合って怪我人の手当をしよう。お年寄りや体の不自由な人の手助けをしよう。

土砂災害の前兆現象

土砂災害には、崖崩れ、地すべり、土石流の3種類あり、長雨や大雨、または地震が発生したとき、次の前兆現象を確認したら、早めの避難を心がけましょう。

◆ 崖崩れ ◆

・崖からの水が濁る
・小石が落ちてくる
・崖に亀裂が入る
・崖から音がする

◆ 地すべり ◆

・地面にひびが入る
・井戸や沢水が濁る
・崖や斜面から水が吹き出す

◆ 土石流 ◆

・山鳴りがする
・雨降りが続いているのに川の水位が下がる

◆ 土砂灾害警戒情報 ◆

土砂災害警戒情報は、降雨から予測可能な土砂災害の内、避難勧告などの災害応急対応が必要な土石流や集中的に発生する急傾斜地崩壊が対

象となっています。しかし、土砂災害は、それぞれの斜面における植生・地質・風化の程度、地下水の状況などにより大きく影響されるため、個別の災害発生箇所・時間・規模などを詳細に特定することはできていません。また、技術的に予測が困難である斜面の深層崩壊、山体の崩壊、地すべりなどは、土砂災害警戒情報の発表対象とはなっていません。

津波被害を防ぐために

○ 津波は弱い地震でも襲つてくる

弱い地震はもちろん、弱い揺れでも長い時間揺れたときは、津波が襲つてくる可能性があります。

○ 津波の速さは100メートル10秒

津波は海岸付近でも秒速10メートル程度の速さなので、津波が見えてからではとても逃げられません。津波は海が深いほど速く、太平洋を伝わる速さはジェット機並みです。

○ 津波は繰り返し襲つてくる

津波は、2回、3回と繰り返し襲つてきます。1回目で安心せずに注意報・警報が解除されるまで海岸に近づかないこと。

○ 引き潮がなくても津波は襲つてくる

津波の前に必ず引き潮があることは限りません。

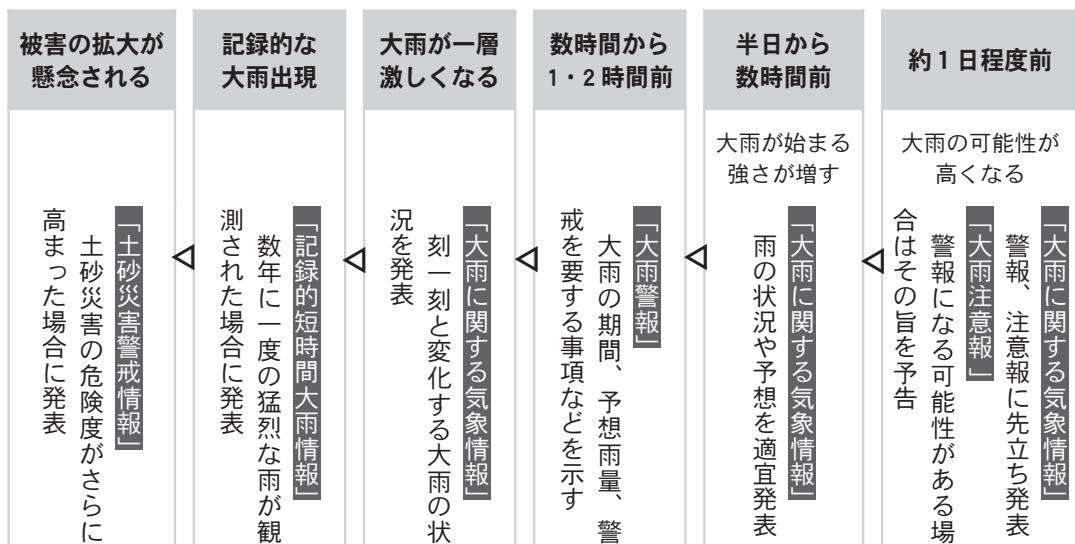
大雨の場合に気象台が発表する 防災気象情報

☆ゲリラ豪雨とは？

ゲリラ豪雨は気象庁の予報用語ではなく、主にマスコミによって、予測困難と思われる「局地的大雨」に対して用いられるようになってきています。これらの豪雨は10キロメートル四方程度のきわめて狭い範囲に1時間あたり100ミリを超えるような猛烈な雨が降りますが、雨は1時間程度しか続かないという特徴もあります。これは前述等に伴って次々に積乱雲が発生、通過して大雨になる従来の集中豪雨とは明らかにタイプが異なっています。（ゲリラの語には突然発生すること、予測困難であること、局地的であること、同時多発することがあることなどのニュアンスが含まれています）

☆集中豪雨とは？

限られた地域に対して短時間に大量に雨が降ることを言います。気象学的には明確な定義はないが、目安として直径10キロメートルから数十キロの範囲に時間雨量50ミリを超える場合、台風などと異なり予測が困難であり、また地形によって土石流・地すべり・崖崩れなどの土砂災害、洪水などの被害がおきやすい。



雨の強さと降り方

1時間雨量(ミリ)	10以上20未満	20以上30未満	30以上50未満	50以上80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋外の様子	地面一面に水たまりができる	道路が川のようになる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる	・山崩れ、崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 ・都市では下水管から雨水があふれる	・都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある ・マンホールから水が噴出する ・土石流が起こりやすい ・多くの災害が発生する	雨による大規模な災害の発生するおそれがある、厳重な警戒が必要

問 役場総務課管財防災係 (TEL 576-2111)